

説論

今年の6月19日に公職選挙法が改正されたことにより約200万人が新たに選挙権を持つこととなった。

そして、7月10日に参議院通常選挙が行われ、18歳以上の有権者の動向にも注目が集まった。18歳以上の国民が有権者となった初めての選挙は、投票率が54・70パーセントで前回の2013年を上回る結果となった。しかし、この投票率は1947年の第一回参議院議員通常選挙以降、過去4番目の低さであった。また、18歳の投票率は51・17%であり、19歳の投票率は39・66%で、注目が集まった新たな有権者の投票率は全体を下回る結果となった。

戦前は男子のみに選挙権が与えられていて、女性には参政権はなかった。ようやく女性の参政権が認められたのは、1945年12月の改正衆議院議員選挙法のことだった。今では当たり前のように男女平等で与えられている選挙権は、昔は当たり前ではなかった。私

意味を持たないものとなってしまふ。投票に行くのが面倒くさい、選挙などどうでもいいと思ひ、自分の意見を示さなければ、後々自分の希望通りにならず困るのは自分である。もしも、自分の意見が反映されないという結果になつても、自分の意見を持ち、それを伝え

自分の意思を伝える

たちに与えられている選挙権は単なる一票ではない。先人たちが命がけて手に入れた、価値のある一票なのである。

ということはあることではないだろうか。これは選挙権だけの話ではない。普段の生活の中でも自分の意見を持ち、それを相手に伝えてい

る。選挙のたびにニュースなどでよく耳にする「一人の力では何も変わらない」と考えている人も多くいるだろう。しかし、そう考える人が増えれば増えるほど、選挙権は

うか。流れに身を任せ、どうなつても良いと思ひ、他人に流されていへば、後から自分が困る結果を招くことになるだろう。自分の意見を伝え

なければ、互いに円滑なコミュニケーションをとることもできない。自分の意思を相手に伝えるということは、どのような場面でも大切なのだ。

衆議院が任期満了した後に選挙が行われるとしたら、それは2018年の12月ごろである。この時には、現在高校生の私たちの多くは選挙権を持つことになる。しかし、これは衆議院の解散がない場合であつて、もし衆議院の解散があれば、また若者の意見を政治に反映させる機会がもつと早く来る。この選挙で、若者が意見を提示すれば、若者にとって過ごしやすい国になるはずだ。自分の意見をしっかりと持ちそれを伝えることが、自分にとって良い結果を導くはずだ。